



# 但馬水産技術センターだより



## 漁況情報 (G2423号)

令和6年7月31日

兵庫県立農林水産技術総合センター  
但馬水産技術センター 発行

### 2024年度日本海スルメイカ長期漁況予報をお知らせします。

国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所と日本海沿岸各道府県水産関係機関等が検討し、水産資源研究所がとりまとめた2024年8月～12月のスルメイカ漁況予報をお知らせいたします。

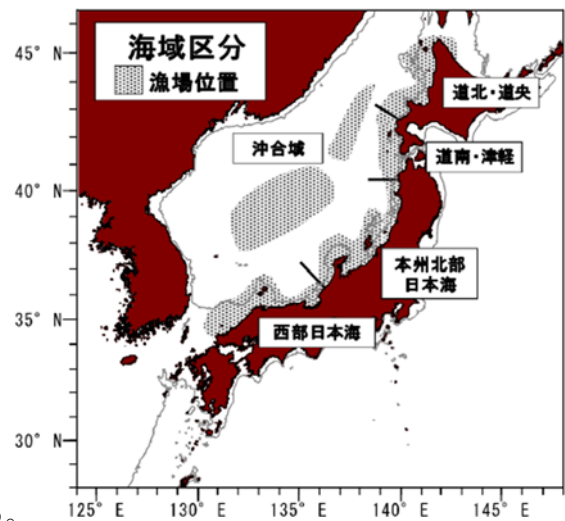
#### 【今後の見通し(2024年8月～12月)】

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海（右図参照）

対象漁業：主にいか釣り・小型いか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群、  
後半は冬季発生系群も含む



1. 全体の来遊量は前年および近年平均を下回る。
2. 西部日本海（福井県～長崎県、小型いか釣り）
  - (1) 来遊量・漁況：前年および近年平均を下回る。
  - (2) 漁場：近年同様、漁場形成は不安定である。
3. 沖合域（北海道西沖～大和堆周辺海域、いか釣り）
  - (1) 来遊量・漁況：前年および近年平均を下回る。
  - (2) 漁場：近年と比べ、漁場が形成されにくい。

※「近年平均」は最近5か年（2019年～2023年）の平均、前年は2023年を示す。

詳細及び他海域の予報は、別添の予報文資料をご覧ください。

予報内容の詳細は、国立研究開発法人水産研究・教育機構のウェブサイト（プレスリリース：<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>）に掲載されています。なお、漁況予報は、水産庁の「我が国周辺水産資源調査・評価等推進委託事業」により、資源の合理的利用、漁業経営の安定及び操業の効率化を図り、資源の持続的利用に役立てることを目的として行われているものです。

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター（担当：中村）

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

E-mail：[nouringc\\_tajima@pref.hyogo.lg.jp](mailto:nouringc_tajima@pref.hyogo.lg.jp)

HP：<https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/>

# 2024年度 日本海スルメイカ長期漁況予報

## 今後の見通し（2024年8月～12月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海（道北・道央海域、道南・津軽海域、本州北部日本海海域、西部日本海海域、沖合域）

対象漁業：主にいか釣り・小型いか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

### 1. 道北・道央海域（小型いか釣り）

- 来遊量：前年および近年平均を下回る。
- 漁場：近年同様、漁場が形成されにくい。

### 2. 道南・津軽海域（小型いか釣り）

- 来遊量：前年および近年平均を下回る。
- 漁場：近年同様、漁場が形成されにくい。

### 3. 本州北部日本海海域（小型いか釣り）

- 来遊量：前年および近年平均を下回る。
- 漁場：近年と比べ、漁場が形成されにくい。

### 4. 西部日本海海域（小型いか釣り）

- 来遊量：前年および近年平均を下回る。
- 漁場：近年同様、漁場形成は不安定である。

### 5. 沖合域（いか釣り）

- 来遊量：前年および近年平均を下回る。
- 漁場：近年と比べ、漁場が形成されにくい。

- \* 道北・道央（宗谷～後志）、道南・津軽（渡島、檜山、青森県）、本州北部日本海（秋田県～石川県）、西部日本海（福井県～長崎県）、沖合域（北海道西沖～大和堆周辺海域）。
- \* 近年平均は最近5年間（2019年～2023年）の平均、前年は2023年を示す。
- \* 道北・道央海域は8月～9月を対象とする。

## I 予報の説明

6月上旬～7月上旬に実施した日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果（図1～3；以降、上記調査をいか釣り調査と呼称する）、2024年6月までの日本海沿岸各地の漁況の経過（図4）、冬季発生系群を主体とした太平洋側への来遊状況（2024年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報）、直近の漁況の情報、また、9月までの海況予報（2024年度 第2回 日本海海況予報）を参考として、今期の漁況を予測した。

### 1. 道北・道央海域（小型いか釣り）

本海域では、従来、7月と10月に2回の漁獲のピークがあり、前半は秋季発生系群が主対象である。後半は夏季に日本海を北上した後、南下する群のほか、道東・オホーツク海から宗谷海峡を經由して来遊する冬季発生系群も漁獲対象となる。

本年のいか釣り調査の結果では、本海域の調査CPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の平均値は、前年および近年平均を下回った。また、8月～9月に当海域に来遊すると考えられる道南・津軽海域におけるスルメイカの調査平均CPUEは、過去最低であった前年を上回ったが、近年平均を下回った。6月の漁期開始後の漁獲量は報告されていないが、近年同様、これまでに漁場形成は見られていない。以上のことから、8月～9月の来遊量は、前年および近年平均を下回ると予測される。なお、10月以降については冬季発生系群が漁獲の対象に加わるが、現時点では宗谷海峡からの来遊量に関する判断材料が揃わないため予測ができない。

### 2. 道南・津軽海域（小型いか釣り）

本海域では、従来、6月～9月に漁獲量のピークがある。また、11月～12月には、夏季に日本海を北上した後、南下する群のほか、太平洋側から津軽海峡を經由して来遊する冬季発生系群を対象とした漁獲量の増加が見られる場合があるが、近年はほとんど見られていない。

本年のいか釣り調査の結果では、本海域の調査平均CPUEは過去最低であった前年を上回ったが、近年平均を下回った。4月以降の道南・津軽海域の漁獲量情報は一部報告されていないが、直近の情報として近年同様、漁場形成は見られていない。また、予報期間後半の来遊量に関係する太平洋側の冬季発生系群の9月までの来遊量は、津軽海峡～道南太平洋海域で前年を下回り、常磐～三陸海域で前年並と予測されている（2024年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報より引用）。以上のことから、本予報期間の来遊量は、前年および近年平均を下回ると予測される。

### 3. 本州北部日本海海域（小型いか釣り）

本海域では、従来、5月～7月が漁期の中心であったが、近年、6月～7月が漁期の中心となっており、8月以降も引き続き漁場が形成される年も見られる。また、12月の漁場形成には、海況が大きく影響すると考えられる。

本年は近年と比べて、5月以降に漁場が形成されておらず、5月～6月の漁獲量は前年並に低い水準で、近年平均を下回った。また、予報期間後半の来遊量の目安となるいか釣り調査における全調査点の平均CPUEは、前年および近年平均を下回った。以上のことから、本予報期間の来遊量は、前年および近年平均を下回ると予測される。

### 4. 西部日本海海域（小型いか釣り）

本海域では、10月以降に沖合から南下する群が漁獲の主対象となる。ただし、近年は10月～12月の南下群の来遊は少なく、漁場が形成される場合があっても不安定で継続しにくい。

本年の5月～6月の漁獲量は前年並であったが、例年、8月～9月の漁獲量は多くない。また、10月以降の来遊量の目安となる本年のいか釣り調査における全調査点の平均CPUEは、前年および近年平均を下回った。以上のことから、本予報期間の来遊量は、前年および近年平均を下回ると予測される。

なお、本予報の根拠として用いたいか釣り調査結果や漁況から予測はできないが、本海域では10月以降に、

2023年のように局所的な漁獲量の増加が見られる場合もある。

## 5. 沖合域（いか釣り）

本海域では、2000年代以降、8月～11月の北海道西沖と、6月～7月および11月～12月の大和堆周辺海域で漁場が形成される年が多かった。しかし、2019年以降では、それまでの傾向と異なり、北海道西沖では漁場が形成されず、主に大和堆周辺海域に漁場が形成されるものの散発的であり、能登半島周辺海域や佐渡沖が主漁場となる場合もある。

今年のいか釣り調査の結果では、本海域の調査CPUEは前年および近年平均を下回ったことから、本予報期間の来遊量は、前年および近年平均を下回ると予測される。また、いか釣り調査における本海域の分布密度が低いことから、全域で漁場が形成されにくいと予測される。

また参考情報として、今期前半の9月までの表面水温および50m深水温はともに平年よりも「やや高め」と予測され（2024年度 第2回 日本海海況予報<sup>1, 2)</sup>、7月5日発表）、漁場形成が不安定化した2019年以降と同様の傾向である。

<sup>1)</sup> [https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2024/fri\\_20240705\\_jpnsea-2nd.html](https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2024/fri_20240705_jpnsea-2nd.html)

<sup>2)</sup> 日本海海況予報における平年は1986年～2015年の平均

## II 日本海スルメイカ漁場一斉調査結果

日本海におけるスルメイカ秋季発生系群の分布状況を、日本海側の8道県および水産研究・教育機構による調査船でのいか釣り調査（6月上旬～7月上旬に実施、全45調査点）によって調べた（図1）。

本調査のCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数、スルメイカの分布密度を示す）は、調査海域全体において低かった。最大の点は隠岐北部の7.85尾であり、そのほかの点はすべて2尾を下回った。また、2019年以降の漁獲の無い調査点が多い傾向は継続しており、45点中11点（24%）で漁獲が無かった。

### 1) 全調査点の平均CPUE

いか釣り調査における全調査点の平均CPUEを日本海への来遊量の目安として示した（図2）。2024年の調査の平均CPUEは0.38尾で、前年（0.49尾）の79%、近年平均（5.95尾）の6%で、前年および近年平均を下回り過去最低となった。

### 2) 魚体の大きさ

いか釣り調査の外殻背長組成を図3に示す。2024年は14cm台にモードが見られ、前年（モードは19cm台）よりも小さかった。スルメイカの分布状況（図1）を見ると、全域で18cm台以下の個体が多く、19cm台以上の個体が見られたのは主に能登半島以西の海域であった。

### 3) 各海域の調査結果

- (1) 道北・道央海域の調査CPUEは、いずれの調査点においても1尾を下回り、漁獲の無い点も見られた。本海域での調査の平均CPUEは0.16尾で、前年（0.57尾）の29%、近年平均（11.2尾）の1%であった。
- (2) 道南・津軽海域の調査CPUEは、最大で1.01尾で、次いで0.05尾の点が2点あったほかは漁獲されなかった。本海域での調査の平均CPUEは0.12尾で、前年（0.07尾）の177%、近年平均（0.85尾）の14%であった。
- (3) 本州北部日本海海域の調査CPUEは、最大で1.15尾、それ以外の調査点はいずれも0.2尾未満で、漁獲の無い点も見られた。本海域での調査の平均CPUEは0.22尾で、前年（0.66尾）の34%、近年平均（2.95尾）の7%であった。
- (4) 西部日本海海域の調査CPUEは最大で7.85尾、次いで1.79尾であり、それ以外の調査点はいずれも0.4尾未満であった。本海域での調査の平均CPUEは1.52尾で、前年（0.87尾）の175%、近年平均（7.29尾）の21%であった。

た。

(5) 沖合域では調査CPUEは、いずれの調査点においても1尾を下回り、漁獲の無い点も見られた。本海域での調査の平均CPUEは0.20尾で、前年（0.39尾）の50%、近年平均（6.84尾）の3%であった。

### Ⅲ 各海域の漁況の経過

2024年6月までの各海域の月別漁獲量を図4に示す。道北・道央ならびに道南・津軽海域については、例年漁期が開始する6月の漁獲量を含め一部報告されていないが、直近の情報として、近年同様、漁場形成は見られていない。本州北部日本海海域での漁獲量は、4月は前年の206%、近年平均の137%となり、主に富山県の定置網と石川県での漁獲であった。5月～6月は前年の91%、近年平均の25%となり、前年並で近年平均を下回った。西部日本海海域での漁獲量は、4月は前年の75%、近年平均の49%と前年および近年平均を下回った。5月～6月は前年の93%、近年平均の36%で、5月以降は前年並で、近年平均を下回った。

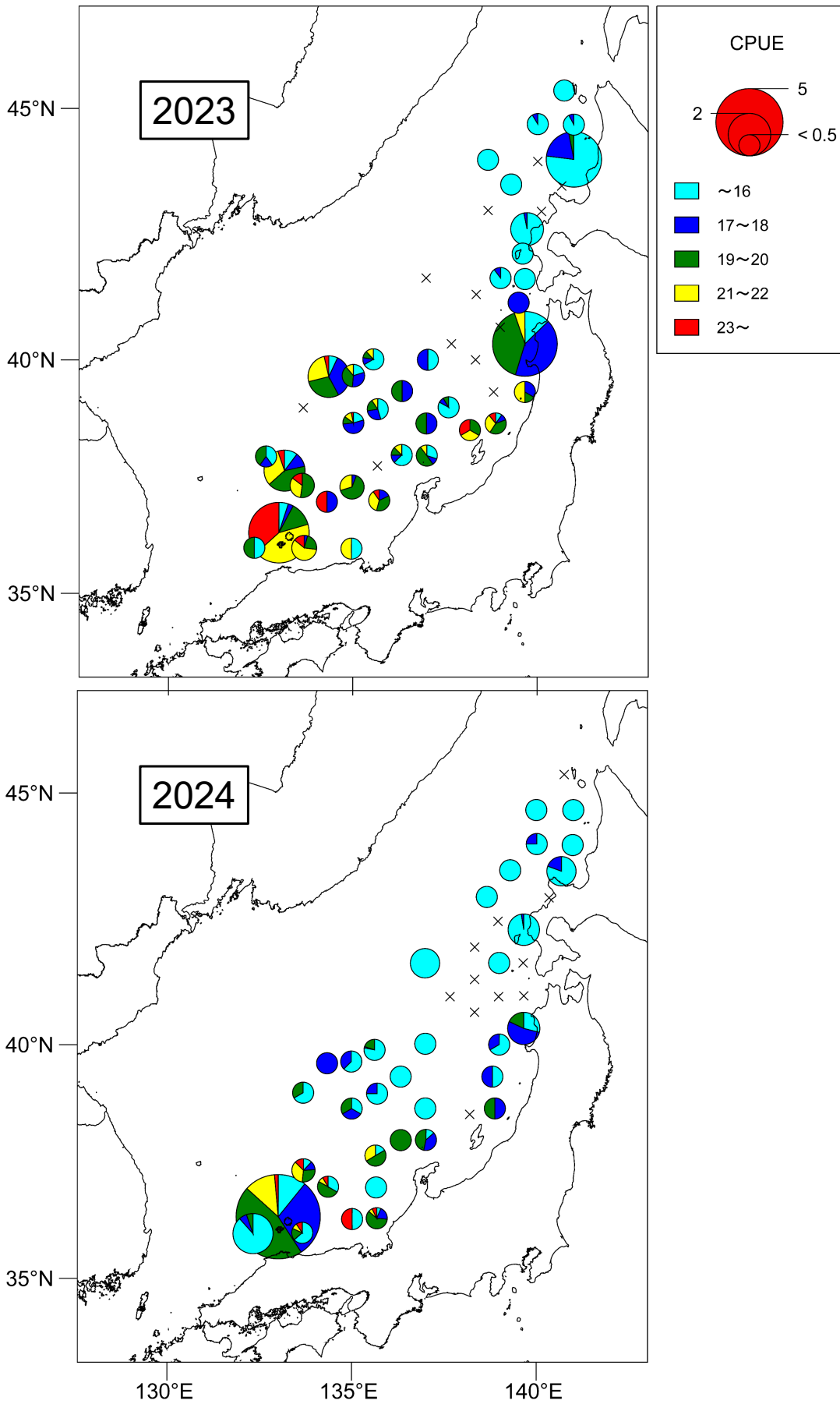


図1. 2023年、2024年の日本海スルメイカ漁場一斉調査におけるCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の分布  
 図中×は漁獲無し、●の面積は各調査点の分布密度の指標となるCPUEを示す（CPUEが0.5未満の点については●の面積を最小とした）。また、各色は各外套背長範囲(cm台)の比率を示す。

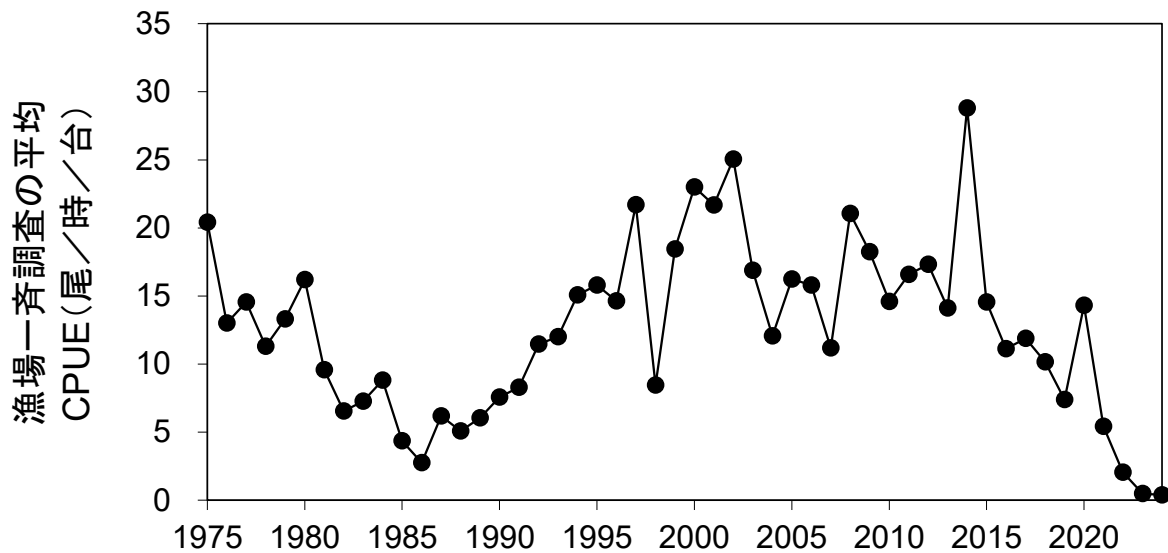


図2. 日本海スルメイカ漁場一斉調査における全調査点の平均CPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の推移

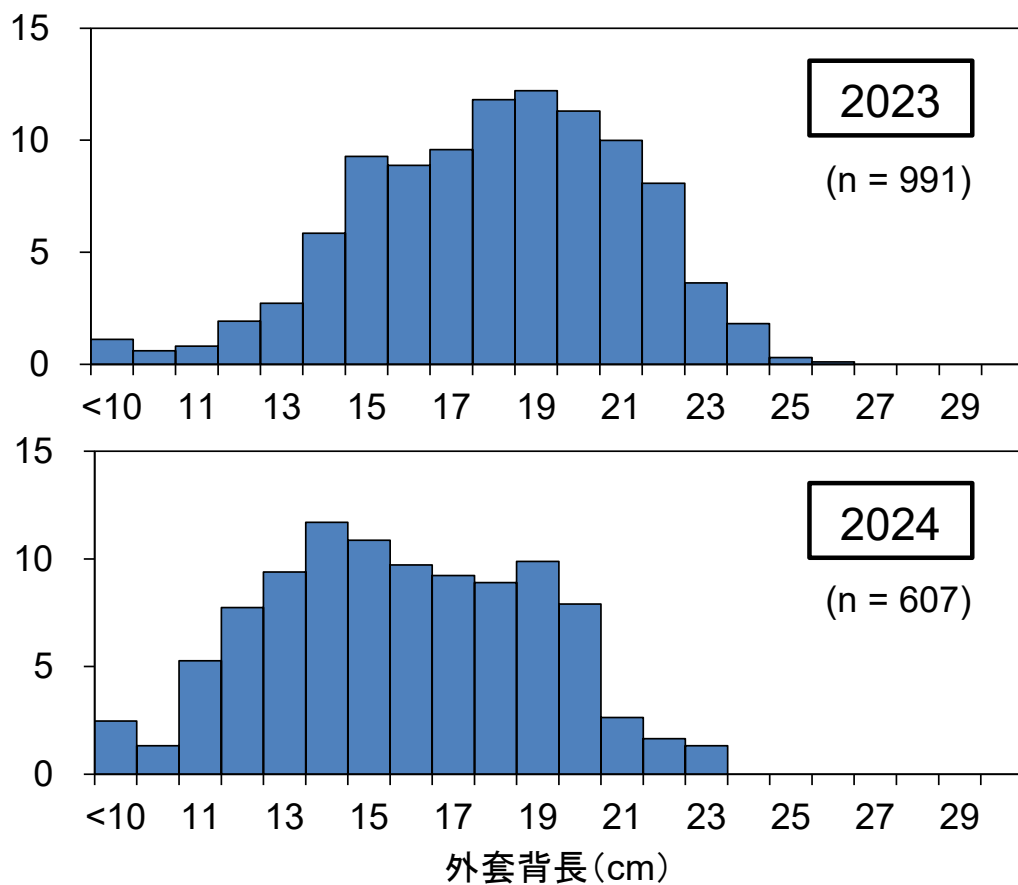


図3. 日本海スルメイカ漁場一斉調査で採集されたスルメイカ外套背長組成  
各調査点の組成をCPUEで重み付け平均した後に全体の組成を作成している。図中のnは測定尾数を示す。

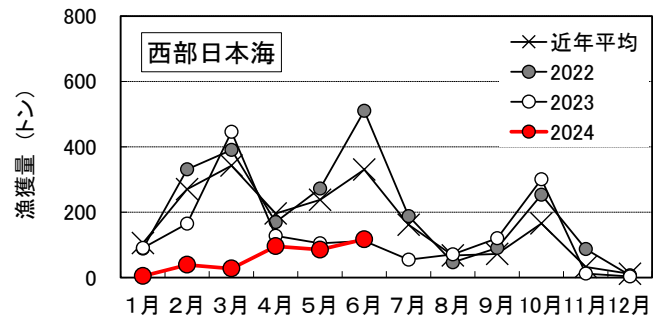
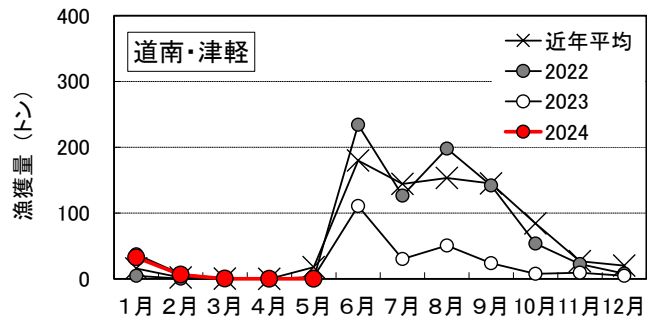
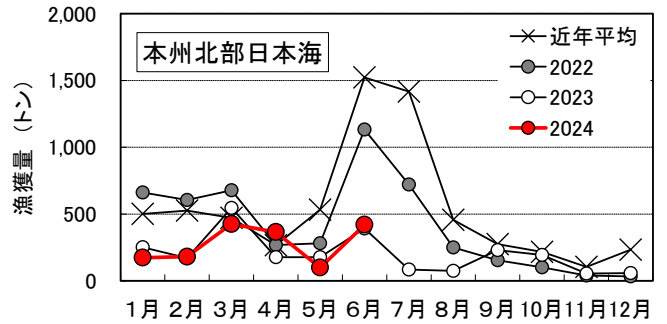
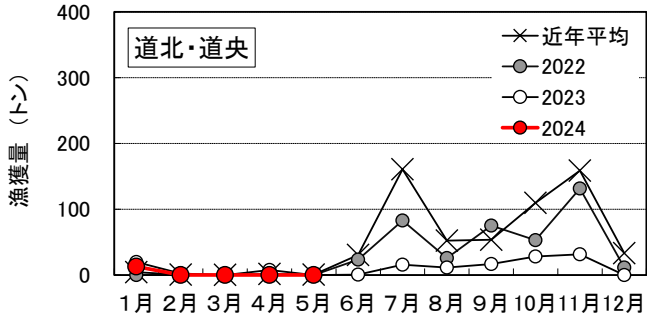
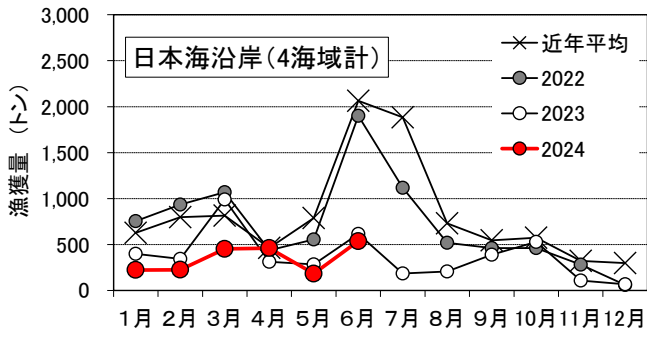


図4. 日本海沿岸（4海域計）および日本海各海域における生鮮スルメイカの主要港漁獲量の推移（4月以降、速報値を含み、また一部未報告である。）  
各道府県試験研究機関および漁業情報サービスセンターの資料に基づく。



## 参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 函館水産試験場 中央水産試験場 稚内水産試験場	京都府農林水産技術センター 海洋センター
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産研究所	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	長崎県総合水産試験場
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター  (取りまとめ機関)
福井県水産試験場	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所